



<情報科学研究科>

参加を希望する学生は、別紙様式に記入の上、1月6日
(火)までに情報科学研究科教務係へ提出してください。

宮 総 教 第 259 号

平成 2 6 年 1 1 月 2 6 日

東北大学総長 殿

宮城県総合教育センター所長
(公印省略)

平成 2 6 年度長期研修員研究発表会について (御案内)

本県の教育行政につきましては、日ごろ格別の御協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、このたび別紙要項のとおり、平成 2 6 年度長期研修員研究発表会を開催することになりました。

つきましては、教職課程履修学生へお知らせ願いますとともに、参加希望学生のとりまとめについてお願いいたします。

なお、参加申込みにつきましては、別紙様式により平成 2 7 年 1 月 2 3 日 (金) ま
で、F A Xにてお知らせくださいますようお願いいたします。

担 当 : 研究開発班 次長 高橋 智男
T E L : 022-784-3549 (研究開発班直通)
F A X : 022-784-3571
E-mail : research-d@edu-c.pref.miyagi.jp

平成26年度 長期研修員研究発表会実施要項

- 1 目的 宮城県総合教育センターの今年度の長期研修員の研究と、前年度の長期研修員の課題解決について発表し、参会者の指導助言を得て今後の研究に生かす。
- 2 主催 宮城県教育委員会
- 3 対象 小学校・中学校・高等学校・特別支援学校教員（国立学校、私立学校も含む）、県内、県外教育機関職員、教職を目指す学生等 400名
- 4 期日 平成27年 2月12日（木）
- 5 会場 宮城県総合教育センター

6 内容・日程

9:30		10:20		12:05		15:35
10:00		10:30		13:20		
2/12 (木)	受付	開 会 行 事	移 動	7つの分科会で発表 (別紙「分科会一覧」参照) ※ 分科会ごとに開会	昼 食 ・ 休 憩	7つの分科会で発表 (別紙「分科会一覧」参照) ※ 分科会ごとに閉会

- 7 発表者

平成26年度	宮城県総合教育センター	
	専門研究員（1年）	19名
	長期研修員A（6か月）	13名
	長期研修員B（年間25日）	10名
平成25年度	専門研究員（1年）	代表6名
	長期研修員A（6か月）	代表3名
	長期研修特A（6か月）	代表1名
	長期研修員B（年間25日）	代表2名

- 8 発表内容 別紙「研究主題等一覧」参照

- 9 その他 開会行事への出席者は、来賓及び平成26年度専門研究員、長期研修員の所属校校長（教頭）、並びに平成25・26年度専門研究員、長期研修員

担当 研究開発班 次長 高橋 智男
電話 022-784-3549

平成26年度 長期研修員研究発表会 分科会一覧

宮城県総合教育センター

分科会		第1分科会	第2分科会	第3分科会	第4分科会	第5分科会	第6分科会	第7分科会
会 場		第3研修室	第4研修室	第5研修室	第6研修室	第7研修室	第10研修室	第11研修室
10:00～10:20		開 会 行 事 (第1・2研修室)						
10:20～10:30		移 動						
10:30～10:40		開 会	開 会	開 会	開 会	開 会	開 会	開 会
1	10:40 ～ 11:05	長期研修A (小)算数	長期研修A (小)体育	長期研修A (中)教育相談・生徒指導	長期研修A (高)発達障害	長期研修A (高)知的障害	長期研修A (中)情報教育	長期研修B (小)理科
11:05～11:15		移 動 ・ 休 憩						
2	11:15 ～ 11:40	長期研修A (中)数学	専門研究 防災教育	長期研修A (小)特別活動	専門研究 特別支援教育	長期研修A (小)重複障害	専門研究 情報教育	長期研修B (小)社会
3	11:40 ～ 12:05	長期研修B (小)算数		長期研修A (小)国語		長期研修B (高)知的障害		長期研修B (中)理科
12:05～13:20		昼 食 ・ 休 憩						
4	13:20 ～ 13:45	専門研究 授業改善・ 学力向上	長期研修B (小)体育	専門研究 教育相談・ 生徒指導	長期研修A (小)道徳	長期研修B (中)美術	長期研修A (高)家庭	専門研究 理科教育
5	13:45 ～ 14:10		長期研修A (小)外国語活動		長期研修B (小)道徳			
14:10～14:25		移 動 ・ 休 憩						
7	14:25 ～ 14:50	長期研修B (中)国語	H25 専門研究 防災教育 代表者	長期研修B (小)特別活動	H25 専門研究 特別支援教育 代表者	H25 長期研修B 代表者	H25 専門研究 情報教育 代表者	H25 専門研究 理科教育 代表者
	14:50 ～ 15:15	H25 専門研究 授業改善・学力向上 代表者	H25 長期研修A 代表者	H25 専門研究 教育相談・生徒指導 代表者	H25 長期研修A 代表者	H25 長期研修特A 代表者	H25 長期研修A 代表者	H25 長期研修B 代表者
15:15～15:35		閉 会	閉 会	閉 会	閉 会	閉 会	閉 会	閉 会

※ 平成25年度 専門研究 6人 長期研修A 4人 長期研修B 2人

平成26年度 長期研修員研究発表会 研究主題等一覧

< 平成26年度 宮城県総合教育センター 専門研究 >

研究領域	専門研究員氏名 (所属校)	研究主題・副題 研究の概要
授業改善・ 学力向上	阿部 充宏 (石巻市立開北小学校) 藤田 篤志 (気仙沼市立気仙沼中学校) 吉田 紀子 (気仙沼市立新城小学校)	児童生徒の学力向上を目指す授業改善 ――算数・数学科における「活用する力」を高める指導の在り方の提言を通して―― 全国学力・学習状況調査の結果から、本県の児童生徒は、特に算数・数学科の「活用」に関するB問題で全国平均とのかい離が大きく、課題が見られた。本研究は、算数・数学科における「活用する力」を高める指導の在り方について提言することで、児童生徒の学力向上を目指す。その具体的な手立てとして、算数・数学科において、日常生活や他教科等の学習との関連を図った授業での「活用する力」を高める授業構想図、「活用する力」を高める授業アイデア例を示し、授業改善を提案する。
理 科 教 育	小野 宜也 (柴田町立船岡中学校) 土井 謙治 (岩沼市立岩沼小学校) 伊藤 直之 (栗原市立築館中学校)	生徒が観察・実験に目的意識をもって取り組む理科授業（2年次） ――観察・実験の技能を習得させる学習活動の工夫を通して―― 昨年度の研究では、生徒が観察・実験に目的意識をもって取り組む授業の在り方を示した。一方、生徒が観察・実験のねらいに迫るためには、器具の技能の習得に課題があることを挙げた。そこで本研究では、中学校理科教員の実態調査から観察・実験の技能の習得に関する場面の設定や学習形態についての課題を明らかにし、生徒が技能を習得するための「知る場面」「個々に操作をする場面」「確認し合う場面」を軸とした学習活動の在り方を探るとともに、授業実践を通してその有効性を検証する。
教育相談・ 生徒指導	佐藤 隆史 (角田市立桜小学校) 中鉢 卓志 (東松島市立矢本第二中学校) 平野 伸一 (宮城県白石工業高等学校)	よりよい人間関係を主体的に築く児童生徒の育成 ――「絆づくり」プログラムの開発と活用の提案を通して―― 本県が抱える生徒指導上の諸問題の一因として、児童生徒が人間関係を築くことに対して課題を抱えていることが挙げられる。本研究では、特別活動と日常生活を関連させた取組を継続的に行うことにより、よりよい人間関係を主体的に築く児童生徒の育成を目指した『絆づくり』プログラムを開発し、その活用を提案する。
情 報 教 育	山田 重啓 (富谷町立富谷中学校) 安田 弘秋 (川崎町立富岡中学校) 秋元 琢也 (宮城県米山高等学校)	学びの可能性を広げるICT活用の推進 ――タブレット端末の活用を中心とした実践ポイント集の作成を通して―― 教育の情報化が進む中、利便性の高いタブレット端末は急速に学校現場へ導入されつつある。このタブレット端末を、全ての教員が学習のねらいに応じて活用できるよう、基本的な機能を中心とした授業での活用場面の提示をはじめ、基本的な操作方法や他のICT機器との接続方法などを内容に盛り込んだ実践ポイント集を作成した。 本研究は、この実践ポイント集をWeb上で発信し、タブレット端末をはじめとするICT活用の推進を提言することで、学びの可能性を広げることを目指す。
防 災 教 育	片桐 正弘 (塩竈市立第一小学校) 日下 泰憲 (亶理町立亶理小学校) 菊地 英樹 (岩沼市立岩沼北中学校) 佐々木 寛征 (宮城県石巻工業高等学校)	災害時に助け合い、協力して地域社会に貢献できる児童生徒の育成 ――「防災教育ハートフルパック」の開発と活用の提言を通して―― 災害発生時には自らの命を守るための知識や技術が必要である。さらに、将来、地域の担い手となる児童生徒には、地域の一員としての役割を理解して行動できる資質を身に付けていくことが求められている。 本研究は、学校防災教育を支援するための「防災教育ハートフルパック」を開発し、その活用を提言することで、自分の命を守るだけでなく、災害時に助け合い協力して地域社会に貢献できる児童生徒の育成を目指す。
特別支援教育	我妻 純子 (大和町立大和中学校) 千葉 拓哉 (宮城県立名取支援学校) 古内 美紀 (宮城県立金成支援学校)	小・中学校における児童生徒への障害理解を推進するための指導の在り方 ――学習ニーズに応じた指導プランの提案を通して―― 小・中学校において障害理解教育を進めることは、インクルーシブ教育システム構築のために重要な取組である。そこで、本研究では、学級担任が学習ニーズに応じた指導プランを活用することを通して、児童生徒への障害理解を推進することを目指す。小・中学校の障害理解教育について、文献研究及び調査研究から現状と課題を明らかにし、既存の障害理解教育を補充、深化し、推進できるようにするための指導プランを提案する。

平成26年度 総合教育センター 長期研修A

研修教科・領域	長期研修員A氏名 (所属校)	研究主題・副題
(小)国語	佐藤 徳之 (白石市立白石第二小学校)	自分の考えが相手に伝わるように書く力を定着させる指導の一試み ー論理的に書くことと論理的に書くことの有用性を実感させる指導を通してー
(小)外国語活動	佐藤 仁 (川崎町立川崎小学校)	外国語活動において、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するための一試み ー地域を題材にした英語教材「Let's Kawasaki!」の作成と活用を通してー
(中)教育相談・生徒指導	荒 美智代 (七ヶ浜町立向洋中学校)	生徒に目標をもたせ、自己効力感を高めるための援助的なアプローチの一試み ーSFAを用いた、チーム支援としての学校教育相談を通してー
(小)体育	小原 静乃 (松島町立松島第一小学校)	心と体の動きの変化に気付き、動きを高め合う児童の育成を目指した体育科指導の一試み ー第4学年「表現」における「アイデア交流」を通してー
(中)情報教育	後藤 孝浩 (大崎市立古川北中学校)	英語の授業において生徒の情報活用能力を育成するための一試み ーICT機器を活用したPlus単元の学習活動の工夫を通してー
(小)道徳	木村 有生子 (栗原市立築館小学校)	道徳的価値と体験活動の関連を明確にした道徳授業の一試み ー小学校低学年における各教科等の学びの振り返りを生かした指導を通してー
(小)特別活動	安海 武英 (東松島市立野蒜小学校)	互いのよさや違いを認め合う人間関係を育むための指導の一試み ー第6学年学級活動における「いい友タイム」の実践を通してー
(小)算数	千葉 紳 (登米市立米山東小学校)	算数の問題解決に主体的に取り組む児童を育成するための一試み ーSMA(算数マネジメントアシスト)を活用した授業づくりを通してー
(中)数学	戸羽 賢一 (宮城県古川黎明中学校)	数学的に表現する能力を高めるための一試み ー数学的な表現様式に着目して問題解決に取り組む学習活動を通してー
(高)家庭	中津川 真紀 (宮城県東松島高等学校)	子どもの発達に寄り添い、子どもと関わる力を育むための一試み ー絵本を活用した「発達と保育」の授業を通してー
(高)特別支援教育 (知的障害)	吉田 典子 (宮城県立山元支援学校)	Aさんが活動するために必要な依頼をできるようになるための指導の一試み ー相手に分かりやすく伝えるための指導プログラムの工夫を通してー
(高)特別支援教育 (発達障害)	富川 洋子 (宮城県立支援学校岩沼高等学園)	Bさんが、自らの目標に向かって生活しようとする力を高めるための指導の一試み ー教師から認められる安心感をベースに友達と力を合わせる体験の積み重ねを通してー
(小)特別支援教育 (重複障害)	佐々木 雅子 (宮城県立迫支援学校)	Cさんが、自分のやりたい活動を選んで教師に伝えられるようになるための指導の一試み ー好きな遊びに取り組みながら、教師に伝えることを繰り返し行う指導プログラムの工夫を通してー

平成26年度 総合教育センター 長期研修B

研修教科・領域	長期研修員B氏名 (所属校)	研修テーマ・副題
(小)社 会	松本 悟郎 (角田市立角田小学校)	「表現する力を高める社会科の授業を目指して」 －自作資料を活用し、考えを交流する活動を通して－
(小)特別活動	鈴木 絵里 (丸森町立金山小学校)	児童同士の豊かな関わり合いを育む学級活動を目指して －考えの伝え合いから集団決定までの話し合い活動の指導を通して－
(小)体 育	及川 清太郎 (名取市立下増田小学校)	運動の楽しさを味わいながら、技能を身に付けていく授業を目指して －十分に動くための見通しと変容に気付く振り返りの充実を図った授業実践を通して－
(小)算 数	後藤 泰宣 (多賀城市立山王小学校)	自分の考えを表現する力を育む授業づくり －算数科において図や式、用語を使って「かく」活動を通して－
(小)理 科	菊地 暁人 (大崎市立田尻小学校)	児童の考察を促し、思考力と表現力を育む授業を目指して －一人一人が考えをもち、互いに共有し、深め合うことのできる「学び合い」の工夫を通して－
(小)道 徳	中園 由扶子 (大崎市立古川第三小学校)	規範意識や自制心を高める道徳の授業を目指して －自分の思いや考えを温め、自己を見つめることができる授業展開の工夫を通して－
(中)理 科	工藤 敏之 (女川町立女川中学校)	自分で結論を導き出し、「分かる」を実感できる授業を目指して －教材・教具や学習プリントの工夫を通して－
(中)美 術	矢崎 ひさ (登米市立佐沼中学校)	生徒の発想したことや構想したことの具現化に向けた授業づくりを目指して －生徒自身が収集した資料を活用した取組を通して－
(中)国 語	吉田 由紀 (気仙沼市立新月中学校)	論理的に話す力・主体的に聞く力を高める授業づくりの一考察 －言語意識を明確にした授業展開を通して－
(高)特別支援教育 (知的障害)	村上 真由美 (宮城県立支援学校小牛田高等学園)	生徒が自ら情報を得て活用する力を育む授業を目指して －音楽の授業における分かりやすい環境づくりを通して－

別紙（大学用）

（ファクシミリ施行）

（総合教育センター FAX番号 022-784-3571）

あて先 宮城県総合教育センター所長 殿 (研究開発班 高橋 智男 扱い)	件名 平成26年度 長期研修員研究発表会の 参加について	発信 平成 年 月 日 大学名 学長名
--	---------------------------------------	------------------------------

平成26年度 長期研修員研究発表会 参加申込書（大学）

担当課係名

担当者

電話番号

	学 部 ・ 学 科 等	参 加 者 氏 名	希望分科会	備 考
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				

※ 希望分科会の欄には、主に参加を希望する分科会番号を記入してください。